

現状・課題

- 急激な人口減少、少子高齢社会の到来、国民の価値観・ライフスタイルの多様化、技術革新の加速化など、自動車を巡る社会経済情勢は大きく変化。
- 自動車運送事業等における将来的な労働力不足、若者の車離れ、国際競争の一層の激化など新たな課題の発生。

【平成26年7月 「国土のグランドデザイン2050」の策定】

- 「小さな拠点」における周辺を支える自動車交通ネットワークの構築
- 都市機能や居住機能を都市の中心部等へ誘導し、コンパクトシティの形成に資する自動車交通ネットワークや、高次地方都市連合における複数の地方都市等をつなぐ自動車交通ネットワークの構築等
- 国の光を觀せる観光立国の実現



- ・ 地方創生に向けた取組み
- ・ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催

検討体制

- 「交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会」の下に「豊かな未来社会に向けた自動車行政の新たな展開に関する小委員会（仮称）」を設置し、「小さな拠点」における周辺を支える自動車交通ネットワークの構築など「国土のグランドデザイン2050」の具体化等に向け検討
- ①速やかに講ずべき施策の整理
- ②将来を見据えた今後10年程度先までの自動車行政の新たな展開の方向性

【スケジュール】

- 26年 9月24日 小委員会設置
- 10月 第2回
- 11月 第3回（中間整理）以降3回程度開催
- 27年 6月 とりまとめ

委員メンバー

- | | | | |
|-------|--|--------|------------------------------|
| 秋池 玲子 | ボストンコンサルティンググループシニア
パートナー&マネージング・ディレクター | 新保 史生 | 慶應義塾大学総合政策学部教授 |
| 加藤 博和 | 名古屋大学大学院環境学研究科准教授 | 須田 義大 | 東京大学生産技術研究所先進モビリティ研究センター長・教授 |
| 鎌田 実 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 | 中村 文彦 | 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授 |
| 川端 由美 | 自動車ジャーナリスト | 藤井 一也 | 連合中央執行委員、全日本交通運輸産業労働組合協議会議長 |
| 河野 康子 | (一社)全国消費者団体連絡会事務局長 | 村木 美貴 | 千葉大学大学院工学研究科教授 |
| 酒井 一博 | (公財)労働科学研究所所長 | 矢ヶ崎 紀子 | 東洋大学国際地域学部国際観光学科准教授 |
| 篠原 文也 | 政治解説者、ジャーナリスト | ◎山内 弘隆 | 一橋大学大学院教授 |

課題

- 現行の車両法体系におけるナンバープレートは、行政としての自動車の特定・把握といった目的の下、画一的な様式しか認めていないなど、硬直的な制度設計となっている。
 - 他方、近年では、地域の要望に応じた「ご当地ナンバー」の導入を進めており、行政としての自動車の特定・把握といった目的を超えて、ナンバープレートの多面的な活用が求められている。
 - 海外に目を向けると、図柄(デザイン)入りナンバープレートを導入し、ナンバープレートの多面的な活用が図られている。
 - 我が国においてもナンバープレートの多様な活用により、自動車の魅力向上を図るとともに、本来のナンバープレートの機能を妨げる事例(折り曲げ、隠蔽等)について適切な対策(※)を講じる必要があるのではないかと考えられる。
- ※ 上記のうち、本来のナンバープレートの機能を妨げる事例への適切な対策については、「ナンバープレート表示の視認性確保に関する検討会」において検討を行い、その結果を本小委員会に報告する予定。

1. 海外の図柄(デザイン)入りナンバープレートの例

<寄付金付きナンバープレート>



(寄附金の使途)
観光・地域振興(=ワインの特産地)



(寄附金の使途)
州の自然と動植物の保護

<デザイン入りナンバープレート>



オーストラリア

<オリンピックナンバープレート>



2010年バンクーバー五輪

2. ナンバープレートの機能を妨げている事例



(折り曲げ)



(カバー)



(ナンバーを被覆するフレーム)



(隠蔽(下向き))



(隠蔽(可動式))



※インターネットより写真転載)

社会の幅広いニーズへの対応したナンバープレートの多様な活用により、自動車の魅力向上を図るとともに、本来のナンバープレートの機能を妨げる事例について適切な対策を講じる必要がある。